

酪農・豆知識 第 94 号**耕作放棄地の放牧利用(2)**

酪農・豆知識第 93 号では、耕作放棄地の利用した放牧を実施するために最低限必要な資材について紹介しました。今回は、紙面の都合上解説を載せきれなかった資材や留意点、放牧を行っていく上であると便利な資材や施設について補足します。

電気牧柵への補足等

電牧線に触った家畜を感電させるためには、アースの設置が重要です。このため必ずきちんとアースを設置しなければなりません。また、電牧線の下や周辺の草が伸びて電牧線に接触すると漏電が起こり、電牧線の電圧が低下します。電圧の低下は家畜が逃げ出す(脱柵)原因となるので、定期的に電圧をチェックする必要があります。電圧が下がっている場合は、電牧線を見て回り、草が触っているようなら刈り払う必要があります。電圧計は電気牧柵器のメーカーから発売されています。さらに、電牧線(ポリワイヤー)を巻きとるリールがあると、回収や再設置の際に便利です。放牧地の外周に張った以外にリールに巻いたポリワイヤーを用意しておけば、次の放牧地への誘導路作りや家畜を集めるときの誘導にも用いることができます。

耕作放棄地でウシが採食するのは、田畑に生える雑草や野草なので、ミネラルの摂取量が不安定になります。このため、水槽の近くに給塩台を設置して、ミネラル補給ができる家畜用の塩を給与する必要があります。

耕作放棄地はもともと水田や畑だった所が多く、日陰になるものが少なく、このため夏季間の放牧では、暑熱対策として庇陰舎(ひいんしゃ)の設置が必要となります。特に親子放牧を行う場合は子ウシの損耗を少なくするためにも庇陰舎が必要です。これは単管パイプなどを利用して低コストで作ることができます。

放牧牛の馴致

牛舎で飼われていたウシを耕作放棄地に放牧するには、外の環境に馴らす環境馴致と電気牧柵への馴致(電牧馴致)が必要です。特に電気牧柵を初めて使う場合は、電牧馴致が大切です。

環境馴致は、放牧を始める前に、ウシをパドック(運動場)に出し、その時間を少しずつ長くし外の環境に馴らしていく方法がとられます。この時、パドック内に電牧線を一時的に張り、これにウシが興味を引くようなものをつるしウシが自然と電牧線に触れるようにして電気刺激を学習させると、電牧馴致を同時に行うことができます。

放牧は、牛舎で飼うような毎日の糞かきや給餌を行わなくてもウシを飼うことができますが、可能な限り毎日、ウシの健康状態や電気牧柵の確認を行う必要があります。放牧地を訪れたら、まずウシが脱柵していないかの頭数確認と健康状態の確認を行います。耕作放棄地での放牧特有の病気はありませんが、急激にやせたり、動作が緩慢になっている時は、早めに獣医に診てもらった必要があります。次に水と塩の確認を行い、必要があれば水と塩を補給します。さらに、定

期的に電気牧柵の電圧を測定し、漏電していないか確認します。

肉用繁殖牛を放牧している場合は妊娠末期のウシなどを除いて基本的に補助飼料を給与しなくてもウシを飼うことができますが、見回りの際に濃厚飼料などを一握り程度給与することで、転牧などの際にウシを集める作業を楽にすることができます。

今回紹介している小規模移動放牧は、いくつかの耕作放棄地を放牧地とし、この間でウシを移動(転牧)させながら放牧利用していく方法です。転牧する先との距離が近い場合は、牛を引いていくか、ポリワイヤーなどで簡単な通路を作る方法があります。距離が離れている場合は、運搬車などを利用することになりますが、いずれの方法でも、ウシが転牧することで良い草を食べることができると学習するので、転牧作業は徐々に容易になります。転牧のタイミングは、放牧しているウシが外ばかり見ていたり、電牧線の下から首を伸ばして外の草を食べたり、人を見たら寄ってきたりする場合は食べられる草が減ってきていることを示していますので、次の放牧地へ転牧します。

耕作放棄地の牧養力

(独)農研機構畜産草地研究所で行った4か所の耕作放棄地での放牧試験の結果では、述べ放牧頭数は、1ヘクタール当たり86~271頭・日(1頭を1日放牧すると1頭・日)でした。この結果から、例えば30アールの耕作放棄地で、そこに生えている草だけで1頭の繁殖ウシを夏から秋にかけての時期に放牧できる期間は、3~10週間と考えられます。なお、実際に放牧する場合、一頭だけで放牧すると落ち着かなくなるため2頭以上で放牧する必要がありますので、放牧できる日数はさらに短くなります。また、耕作放棄地にある草は、地形、気象条件、水田跡、畑跡などの前歴と耕作されなくなっからの経過年数によってさまざまであり、季節による草の伸び方(草の量)やウシの嗜好性も異なるので、放牧に必要な面積は、入牧時期・植生・地域によって、大きく変わってきます。

これらの点は毎日のウシの観察によって知ることができます。

この酪農・豆知識の内容についてより詳しく知りたい方は、農研機構から公表されているマニュアルをご覧ください。

- ・小規模移動放牧マニュアル 畜産草地研究所技術レポート6号

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011176.html

- ・小規模移動放牧技術汎用化マニュアル(Q&A)「身近な草資源を放牧地としてもっと活用しよう!」-耕作放棄地解消に向けた放牧活用術-畜産草地 研究所技術レポート10号

http://www.naro.affrc.go.jp/pubficity_report/publication/files/nilgs_report_10.pdf

- ・よくわかる移動放牧 Q&A 近畿中国四国農業研究センター

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/movement_pasturage_all.pdf